

## 白馬主稜 (C&R) / 二股駐車場～白馬尻 (幕営) ～白馬主稜～大雪渓滑降

2017.04.15-16

メンバー：谷嶋、滋田、小濱(記録)

天気：4/15 雨あられ 4/16 快晴のち曇り

記録：4/15 二股駐車場(7:00)→猿倉(9:00)→白馬尻(10:30)幕営

4/16 幕営地(3:00)→白馬岳(14:30)→白馬尻(17:00)→除雪終了地点(19:30)→二股駐車場(22:00)

変わり種の山をやりたいと思っていた矢先、例会で谷嶋会長が言ったのは「ハイブリットが良い」との事。じゃあ丁度良く2日空いてるし、白馬で雪稜登って滑っちゃう？足の速いパーティーなら日帰りだし、板を担いでも行けるっしょと、軽いノリで企画。体力十分で滑りは申し分なしの滋田さんが参加してくれてメンバーに憂いなし！

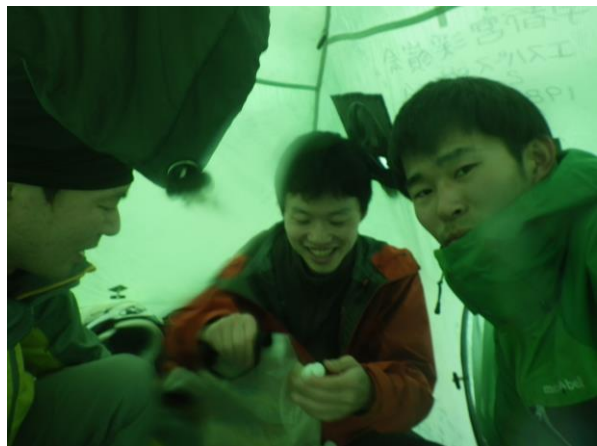
4/15(土)

今日は予報では昼から雨。寒気が入り込んで落雷もあるとの事。雨はともかく雷は怖いよね、ということで稜線上の幕営を白馬尻での幕営に変更。夕方からは晴れる見込みなので、明日早朝から軽荷でラッシュする作戦。

二股の駐車場に着くと既に車が2台止まっている。準備している間にも次々と車がやってきて、やはり人気の山だと感じる。白馬主稜のハイシーズンはGWだ。今回は少し早めの時期なので、上手くすれば頂上直下の雪庇崩しを出来るかと期待していたが、これは難しいか？やはり工事請負の為には3月くらいに入らないと駄目なのか。こわいなあ、まるでチキンレースだ。

二股から先のゲートは締まっていたが、途中までは除雪されていた。雨だが日差しがあつてすごく暑い。汗と雨でビチョビチョだ。ビチョビチョと言えば飯豊だが、道はアスファルトなのでそんな気分にもならない。飯豊でビチョなら諦めがつくのに。猿倉の小屋はまだ半分ぐらい雪に埋まっていた、今年はやはり雪が多いのだろう。

白馬尻につくと大雪渓のデブリはすぐそこまで出ていた。デブリは白くて、あまり日がたつてなさそう結構ビビる。幕営適地を探すと、なるほど、記録でよく見る右岸の台地は良さそうだ。雨を避けてさっさとテントに潜り込み、早々にワインを空ける。午前中から飲み始めたから全然お酒が足りなくて、一本のワインをみんなでちびちび大事に飲んだ。



4/16(日)

1:00 起床、めし食って準備。今日は午前中、雪が腐る前に山頂に抜きたい。でも焦らず堅く登ろう。  
3:00 に出発。雨は止み、夜空は明るい。昨日の雨で濡れた雪面が夜明け前の寒さに凍り、月明かりとヘッドランプに照らされて滑らかに光る。パリパリと雪を踏み割って夜の八峰に登る。砕いた氷が軽い音を立てて流れていく。この時間は最高だ。

八峰上部で軽く雪壁。ロープを出さず迷うがフリーで。クライミングは未経験の滋田さんも普通に登ってくる。さすが、センスが光る。このパーティーなら今日は行けそうだ。

先頭を回しながらドンドン稜線を歩く。谷嶋代表は例のヤツでつらそう。日が出るとあっという間に雪が緩んできた。6峰？の下の雪壁で一度ロープを出す。このすぐ後に後続の4人パーティーが追いついてきたので先頭をお願いした。いやー疲れたー！

今振り返れば、このくらいから私は胃の調子がおかしかった。パンを食ったら油気で気持ち悪くなり、それ以降食べる機会が減った。食料計画は大切ですね。

ナイフリッジで4人パーティーがロープを出していたので、私たちも待機。4人は愛知からで白馬主稜は初めてとの事。この後も難しいところが出てくるのか気にされている様子だった。50m 2ピッチでナイフリッジを通過し、続く雪壁はフリー。ここで愛知パーティーと先頭を交代。ラッセルきつい……。きついけど嬉しい……。

4峰？手前に再びナイフ&キノコ雪。50m 2ピッチで通過。ナイフリッジの上にはライチョウの足跡(!)が付いていて、緊張しながらも少しホッコリ。キノコ雪は谷嶋さんリードで突破。正面突破を試みるが中々に悪いようだ。左からキノコの傘の下を巻く、スキー板がキノコの傘に引っかかってキツそうだ。これを越えるとかなり広めの幕営適地、4・5テンなら余裕だろう。そして小濱は完全にバテたー。谷嶋隊長に休憩を懇願し、ここで大休止する。

どうも今年は雪が多く、雪稜の難易度が上がっているようだ。踏み跡が無く先頭を歩いているのも、良く目にする記録より時間がかかっている要因だろう。雪も緩んできた。何とか 13:00 までには山頂に抜きたい。

しばらく休むが後続のパーティーが来ない。昨日の白馬尻には私たちを含めて4パーティーいたが皆撤退したようだ。つまり、今日の主稜は俺たちが独占だ！

(というか、ここから下るのも相当シビアだと思うのだが、大丈夫か?)



板を担いで雪稜を登る、これがやりたかった(笑)



主稜を独占だ！

しかし、大分休ませてもらったが全く回復しない。朝はこう思っていた、高山病でキツそうな谷嶋さんと不馴れな滋田さんの代わりに全部ラッセルしてもいい！俺はやるぜ！と。でももう全然ダメ。一番後ろをとぼとぼ歩き、二人に付いていくので精一杯。思考停止状態で、頂上直下の雪壁まで連れてきてもらった。

最後の雪壁は 50m 2 ピッチ。谷嶋さんから温情を頂きリードさせてもらう。固い雪の上に緩んだグサ雪が厚く乗っていて気持ち悪い。ピッチを切ろうと思って残置のスリングが見える岩場に行くが、残置ハーケンは簡単に抜ける始末。あーあ、やっぱり集中力が無いときは判断間違えるなあ。おとなしく雪壁でピッチを切ればよかった。後悔しながらバイルでハーケンを打ち直して支点構築、谷嶋さんに最終ピッチをお願いする。頂上直下の雪庇前で振り返れば、今日歩いた白馬主稜が一望できる。大きくうねった稜線は本当に格好よくて、疲れた体に風が抜ける。

頂上に出れば一息つけると思っていたんだけど、稜線は爆風で全然休めない。上でずっとビレイしていた谷嶋さんはかなりキツかった様子だ。風が強まると板が煽られて転げそうになるので早々に退散した。結局風が防げるところが見つからず大雪渓まで降りる。



白馬岳直下、最後の雪壁へ登る



大雪渓の最上部、巨大な雪庇に過酷な冬を感じる

大雪渓上部はカチンコチンでスキーがド下手な自分にはかなり堪えた。白馬尻のテントまで戻ると、撤退した愛知のパーティーにちょうど出くわした。他のパーティー無事に降りたようだ。安堵しながらも、全員かなりお疲れモードでなかなかテントの撤収に掛かれない。日が傾く中で重荷を背負い、ようやく最後の滑走開始だ。

ここからはさらに小濱が足を引っ張りまくった。遅い、すぐ転ぶ、立てないで、さんざん時間を食って途中からヘッテン滑降。結局除雪終了点まで 2 時間近くかかる。そして板を背負っての林道歩きでは谷嶋さんに荷物を持って貰い、休み休みの牛歩。さらに滋田さんは駐車場まで先行して、空身で登り返し、小濱の荷物を担ぐという強靱ぶり。とっても助けられた。何とか二股の駐車場にたどり着いたのが 22:00 で実に 19 時間行動。長い一日だった。(まあ、私がまともに歩いていけば 4 時間なのだが)

遅い時間だったので風呂はパス、長野市内で牛丼を食って帰路に就いた。途中で運転を交代しながら帰ったが、私は 10 年ぶりくらいに MT 車を運転した。ホンの 30 分くらいだったが、正直この 2 日間で一番緊張した。



帰りの高速で谷嶋さんのレガシーはギリ番を迎えた